

(様式第1号)

令和3年12月13日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 様

領域名：認定介護福祉士養成研修導入

科目名：認定介護福祉士概論

単位数：1単位

認証申請する研修の名称：コミュニティケアワーカー養成導入研修

団体名：一般社団法人京都地域密着型サービス事業所協議会

団体事務所の所在地：〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上の口上る梅湊町83-1

ひと・まち交流館京都4階

電話：075-354-8706

FAX：075-354-8770

E-mail：kyoto-tiiki-mittyaku@lime.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 奥本 喜裕

申請責任者：杉原 優子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和3年11月26日
申請団体名	一般社団法人京都地域密着型サービス事業所協議会
申請団体代表者氏名	会長 奥本 喜裕
申請責任者職名	副会長・研修プロジェクト委員長
申請責任者氏名	杉原 優子
団体住所	〒 600-8127 京都市下京区西木屋町通上の口上る梅湊町 83-1 ひと・まち交流館京都 4階
同 Tel・Fax	Tel : (075)-(354)-(8706)
メールアドレス	Fax : (075)-(354)-(8770) E-mail <u>kyoto-tiiki-mittyaku@lime.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 認定介護福祉士養成研修
科目名 (単位数)	科目名 : 認定介護福祉士概論 (1 単位)
申請する研修名	コミュニケアワーカー養成導入研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認定介護福祉士養成研修導入	
科目名	認定介護福祉士概論	
(1) 提供する研修について		
研修名	コミュニティケアワーカー養成導入研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティケアワーカーになろうとする者や関心をもつ経営者等に対して、コミュニティケアワーカーの役割について普及するとともに、コミュニティケアワーカーの役割や学習は、認定介護福祉士につながっていくものであることを理解させる。 ・ 認定介護福祉士研修全体の導入として、認定介護福祉士に求められる役割、本研修で獲得すべき知識、実践力と、本研修全体の組み立てについて理解させる。 ・ 介護現場の様々な問題がなぜ起きるのかについて、介護観・支援目標の共有化など、チーム運営の視点で把握するとともに、自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を理解させる。 ・ 自ら考える力・自ら学ぶ力の重要性を改めて確認させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定介護福祉士養成研修の体系を理解し、学習計画を立てる。 ・ 認定介護福祉士に求められる役割と実践力について説明できる。 ・ 介護現場でおきる問題について、チーム運営の視点で分析できる。 ・ 自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を説明できる。 ・ 自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのように影響しているかを自覚する。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護をめぐる社会的動向（地域包括ケアシステムと医療・介護連携等）と介護福祉士の役割の変化 ・ 認定介護福祉士に求められる役割と実践力（根拠ある生活支援、介護職のチーム運営・マネジメント、職種間連携、地域連携） ○介護現場における様々な問題とその要因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職種間または組織間に起こりやすい問題 ・ 利用者への関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前課題①（2時間） <p>事前に送られる認定介護福祉士説明資料を読み、認定介護福祉士養成研修の体系や認定介護福祉士の仕組みが創設された経緯等について自己学習したうえで、認定介護福祉士に関する質問、認定介護福祉士となっていくうえでの自身の学習・成長の課題等について A4 用紙 1 枚程度でまとめ、提出させる（課題は集合研修の講義で活用するとともに、集合研修及び事後課題への学びの準備させることを目的とする）。</p> ○事前課題②（2時間） <p>認定介護福祉士の求められる役割・知識について全体的に理解し、また現時点での知識の不足等を自覚させるために、在宅生活の継続性を保つための支援、家族支援・地域との関係形成、医療職等と</p>

	<p>や介護観の相違により起きる問題</p> <p>○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームを構成する職種間連携各職種の役割・機能の理解 ・チームケア・チームアプローチとは何か ・チームにおける介護観・援助目標の共有化 ・チーム内・職種間の調整・チームメンバーとのコミュニケーション <p>(キーワード) 介護の専門性、尊厳、自立支援、チーム、チームアプローチ、連携、コミュニケーション能力、態度、価値観、専門的知識の共有、コンフリクト、調整能力</p>	<p>の職種間・機関間連携、チーム運営などを総合的に学べる事例検討に取り組みせ、提出、持参させる (A43 枚程度)。</p> <p>○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 (3 時間)</p> <p>(講義) 介護福祉士の実践の蓄積の歴史、医療・介護連携や地域包括ケアシステムの整備などの政策動向、将来的な人口動向や介護ニーズの見通し等踏まえて、認定介護福祉士が求められるようになった社会的背景を解説するとともに、介護職チームのマネジメント、多職種及び機関間連携、家族支援・地域支援における認定介護福祉士の役割について解説する。</p> <p>○事例に基づく演習 (5 時間)</p> <p>事前課題②で自己学習した共通事例に基づいて、グループにわかれて各人の検討結果の報告と共有、講師からの改題と検討課題の提示、課題に関するディスカッション、講師からの説明という流れで行なう。</p> <p>事例は1人の高齢者の長期間にわたる支援を取りあげて、介護現場で遭遇する問題から、それにたいする問題分析の視点、必要な知識、解決策検討の視点を学ぶものとする。事例検討を通して、在宅生活の継続性を保つための支援、家族支援・地域との関係形成、医療職等との職種間・機関間連携、チーム運営などにおける認定介護福祉士の役割、求められる知識・判断力・技術などを総合的に学ぶものとする。</p> <p>○事後課題 (3 時間)</p> <p>講義・演習の内容を踏まえ、認定介護福祉士研修を受講するにあたり、①自職場において介護職チームが抱える課題にどのように取り組むか、②地域において認定介護福祉士としてどのような活動を行うべきか、③今後どのように学習していくかについて、それぞれ 1600 字以上でまとめる。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■通学課程 (集合研修)</p> <p>■課題学習</p>	

研修時間	15 時間（集合研修 8 時間、課題学習 7 時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない</p>
講師要件（講師の選定基準）	○認定介護福祉士について十分な知識を有し、講師等の教育経験を持つ者
(2) 受講者について	
受講対象 (受講要件)	<p>(1) 次のア～ウのいずれをも満たしていること。 ア 介護福祉士資格取得後の実務経験 5 年以上（実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる） イ 介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100 時間以上の履歴を有していること。 ウ 研修実施団体の課すレポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。ただし、機構の定める研修を修了している場合は免除する。</p> <p>(2) 次のエ又はオを満たすことが望ましいこと。 エ 介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー、サービス提供責任者等）としての実務経験を有すること。 オ 居宅、居住（施設）系サービス双方での生活支援の経験があること。</p>
修了評価（習得度、研修成果）	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>③事後課題の評価が A～C であること。D 評価の場合は再提出を求め、C 以上の評価を得なければならない。</p>
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	20 名（1 名）
開催場所（都道府県）	京都府 京都市

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 令和3年11月4日
開催場所 (会場)	① 京都教育文化センター103号室
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>諏訪 徹氏 略歴； 1988年全国社会福祉協議会に入職。中央福祉人材センターでは「介護サービス従事者の研修体系の在り方に関する研究」(2004年～厚労省老健局補助事業)に従事し、介護職員基礎研修、介護福祉士ファーストステップ研修等の検討作業を担当。 2008年7月より厚生労働省社会・援護局総務課社会福祉専門官(地域福祉課・福祉基盤課併任)。厚労省において社会福祉士制度、介護福祉士制度等を担当。実務者研修、初任者研修、認定介護福祉士、認定社会福祉士の検討などに参画。 2013年4月より現職。2015年から認定介護福祉士認証・認定機構理事 認定介護福祉に関する講師歴； 認定介護福祉士モデル研修(マネジメント領域) 認定介護福祉士追加研修(地域におけるプログラムの開発) 長野県介護福祉士会認定介護福祉士研修(地域におけるプログラムの開発) 静岡県介護福祉士会認定介護福祉士研修(介護サービスの特性と求められるリーダーシップ) 介護福祉関係の主な著書： 「介護福祉士による生活支援の考え方」『介護福祉』社会福祉振興・試験センター、2016年春季号No.101、2016年 編著『介護福祉の組織・制度論』光生館、2015年 編著『生活支援総論』光生館、2014年 「キャリアパスと職場内訓練」『認知症ケア事例ジャーナル』第6巻第1号、2013年6月、日本認知症ケア学会</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	一般社団法人 京都地域密着型サービス事業所協議会

研修の企画運営に関する諸規程	<p>一般社団法人京都地域密着型サービス事業所協議会コミュニティケアワーカー養成導入研修実行委員会（非常勤5名）</p> <p>実行委員会事務局（担当事務局員、非常勤2名）</p> <p>研修実行委員会において教育目的や到達目標を確認し、担当講師との協議を深める。また、できる限り研修実行委員会委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。</p>
研修管理責任者職名	（一社）京都地域密着型サービス事業所協議会 会長
研修管理責任者氏名	奥本 喜裕
機構問合先部署	京都地域密着型サービス事業所協議会
機構問合先担当者氏名	堀池 克彦
機構問合先電話番号/FAX	075-354-8706 / 075-354-8770
機構問合先 e-mailアドレス	kyoto-tiiki-mittyaku@lime.ocn.ne.jp
受講問合先部署	京都地域密着型サービス事業所協議会
受講問合先担当者氏名	田端 文恵
受講問合先電話番号/FAX	075-354-8706 / 075-354-8770
受講問合先 e-mailアドレス	kyoto-tiiki-mittyaku@lime.ocn.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	
受講履歴の管理方法	紙媒体及びデータによる台帳管理研修データの保存期間 10年
受講履歴の証明	受講修了証明書発行
管理責任者氏名	奥本 喜裕（会長）
管理担当者氏名	田端 文恵